

【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 継続認証 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）


初回申請から更新した箇所は黄色セル

1. 団体情報

企業・団体名	日本トランスオーシャン航空株式会社
--------	-------------------

2. 申請内容

(1) 2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）		2030年のあるべき姿の実現に向けて取り組むゴール ※SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。
*SDGsの目標である2030年までに、「(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 (貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など)		
JALグループでは、サステナブルな人流・商流・物流を創出し、「移動」と「つながり」のチカラで社会課題を解決することを目指し、ESG戦略を経営戦略の軸においた中期経営計画を策定しています。弊社としても、持続可能な成長を遂げるためにESGに配慮した事業活動に取り組むことを掲げ、以下に取り組むこととしています。		
(2) E（環境）CO <sub>2</sub> 削減、脱プラ等、S（社会・人）人権の尊重、健康と安全、地域社会への貢献等、G（ガバナンス）公正・透明な経営、積極的な情報開示等		

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組			おきなわ SDGsアクションプランとの関係性		関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 *任意の箇所は、プルダウンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標	関連するSDGsターゲット	*連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	*補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 (2025年)	目標値 (2027年)
1	航空運送事業を通じた他社との事業連携によるサステナブルな観光推進	経済	必須 優先課題④	④-1 魅力的な観光産業の展開と環境保全の両立により、世界に誇る持続可能な観光地（サステナブル・ツーリズム等）の形成を実現する。	12.b 14.1 14.2 15.1 15.2 15.5	JALグループ各社 旅行会社 ツアーガイド、アクティビティ提供事業者 一次産業事業者等		サステナブルな観光コンテンツや商品の作成	2件	環境保全の普及啓発に資する取組5件 (2025年+3件)
2	地域課題の解決による社会への貢献活動（世界自然遺産推進共同企業体の活動、サンゴ再生支援活動の更なる推進）	社会	必須 優先課題⑦	⑦-1 美しく豊かな自然が保全され、生物多様性の維持を実現する。	6.6 11.4 14.2 15.1 15.2 15.5 15.8	世界自然遺産推進共同企業体 サンゴ再生支援協議会 行政機関、大学、OIST等		生物多様性の保全に資する継続した取組の実施	2件	2027年までに3件 (2025年+1件)
3	CO <sub>2</sub> 排出削減に向けた取り組み	環境	必須 優先課題⑥	⑥-2 2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったグリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、災害に強い島しょ型の脱炭素社会に向けた基盤形成を実現する。	7.1 7.2 7.3 9.1 9.4	JALグループ各社 カーボンクレジット発行企業 沖縄電力 SAF製造企業等		CO <sub>2</sub> 排出量 (旅客、貨物を含めたトンキロあたりで計上)	トンキロ当たりCO <sub>2</sub> 排出量 1,267g (2024年3月)	前年値を下回る排出量
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）										
4			任意							
5			任意							

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細		各活動・取組に関する詳細
*各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。		
取組1	取組の詳細	環境に配慮した魅力的な観光コンテンツを開発し、沖縄の豊かな自然を次世代へ残しつつ、関係人口を増やしながら持続可能な観光の形成に貢献する。
	取組において、現時点で実施/決定していること	やんばるの森ネイチャーガイドツアーの実施 <a href="https://www.japawalk.com/campaign/yambaru_kugani.html">https://www.japawalk.com/campaign/yambaru_kugani.html</a> 有性生殖・サンゴ再生ツアーの実施 <a href="https://jjs-okinawa.com/magazine/718/">https://jjs-okinawa.com/magazine/718/</a>
	取組において、今後予定していること	「生物多様性」がキーワードである結ンベエ周航に併せて活動を活発化する。 結ンベエ就航及びそれに合わせた環境学習、普及啓発グッズの開発など
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	現状の2件はやんばるの森ネイチャーガイドツアー及び有性生殖・サンゴ再生ツアーの実施。 結ンベエ就航及びそれに合わせた環境学習、普及啓発グッズの開発の計3件を指標とする。
	取組を推進する体制	結ンベエを共同プロジェクトとして実施した沖縄美ら島財団やJALグループが持つリソースを活用しながら、連携した体制で実施する。
取組2	取組の詳細	これまでに実施してきた世界自然遺産推進共同企業体の活動やサンゴ再生支援協議会の活動の発展。
	取組において、現時点で実施/決定していること	世界自然遺産推進共同企業体：各地でのビーチクリーン活動、世界自然遺産沖縄基金の設立、普及啓発活動、環境保全・保護活動など サンゴ再生支援協議会：石垣、久米島でのサンゴ有性生殖の実施
	取組において、今後予定していること	世界自然遺産推進共同企業体として、現状の課題をブラッシュアップし、外来種防除活動など、さらなる環境保全・保護等の継続的な取組につなげる。 サンゴ再生支援の継続的な実施
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	持続可能な新たな取り組みに向けて関係機関、各企業・団体と検討を進める。 現状の2件については、「世界自然遺産推進共同企業体における基金事業」・「サンゴ再生支援協議会の支援活動」である。今後は外来種防除活動など持続可能な取り組みを増加していく。
	取組を推進する体制	企業体、協議会のリソースの有効活用により、強固な取り組み体制を維持していく。 「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」においては、企業体/協議会での意思決定をしているが、JTAが代表企業・幹事企業としてそれぞれを取りまとめている。
取組3	取組の詳細	航空機の運航により排出されるCO <sub>2</sub> の削減に取り組み、カーボンニュートラルを目指す。
	取組において、現時点で実施/決定していること	運航方式の工夫等によるCO <sub>2</sub> 削減。
	取組において、今後予定していること	地上作業者のEV化推進。長期的にはカーボンクレジットの購入やSAFの活用検討。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	CO <sub>2</sub> の削減には確実に取り組むため短・中・長期での取り組みを検討中。路線及び便数計画を考慮し、CO <sub>2</sub> 総排出量ではなく、トンキロあたりの排出量としている。
	取組を推進する体制	JALグループ各社との連携に加え、SAFを製造するメーカー等と連携し、取り組みに応じた体制を構築する。